

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

今年度の新しい新聞・雑誌のご紹介

2020年4月から新たに受入を始めた新聞と雑誌をご案内します。ぜひ、ご利用ください。

- 【新聞】Newspaper ● 新聞之新聞(週3回刊)
- 【雑誌】Magazine ● alterna オルタナ(季刊)
- 現代詩手帖(月刊)
- 料理王国(2020年10月号より隔月刊)
- 墨(隔月刊) ※3階アート情報支援コーナーにあります

9月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 「競争社会の光と影」(～11/13)

2F エレベーターホール 「これからの書店・図書館・出版社・取次」(～10/30) NEW!

「今、避難するならば 災害時に考える感染予防」(～9/30) NEW!

「千代田区生きものさがし 2020」(～10/31) NEW!

3F ブルーゾーン 「HIBIYA NOTE -日比谷の音はボードレス-」(～10/16)

3F グリーンゾーン 「考えてみよう」(～9/18)

3F エレベーターホール 日比谷カレッジ関連展示 林野庁×日比谷ビジネスSDGs 「なぜ今、都会で山林を考えるのか?」(～9/30)

3F エレベーターホール 「Beethoven生誕250周年 「楽聖」と呼ばれる天才作曲家」(～9/30) NEW!

3F エレベーターホール 「日比谷にあの人がやって来た!」(～9/30) NEW!

展示 PICK UP

2Fエレベーターホール ～9/30(水)

今、避難するならば 災害時に考える感染予防

新型コロナウイルス感染症が蔓延しています。もしこの状況下で避難警報が出されたら。どういった行動をとればいいのか、どのような備えをしておけばいいのか。千代田区の避難所・災害時退避場所の地図と、この時だからこそ確認したい内容をピックアップしました。

「必ずくる震災で日本を終わらせないために。」 福和 伸夫 著 時事通信出版局 2019年

「必ずくる震災で日本を終わらせないために。」 福和 伸夫 著 時事通信出版局 2019年

2Fエレベーターホール ～10/30(金)

これからの書店・図書館・出版社・取次

コロナウイルスは本を取り巻く世界にも大きな影響を与えました。書店も図書館も、そして出版社、取次もさらなる改革が必要であるという事実を突きつけられています。電子書籍にどう対応していくか、ネット通販は…。現代の出版の流れを再確認するとともに、それぞれの業界がどう変わっていくべきかを考える展示です。

『もうすぐ絶滅するという紙の書物について』 ウンベルト・エーコ 著 工藤 妙子 訳 CCCメディアハウス 2010年

『図書館のこれまでとこれから』 大串 夏身 著 青弓社 2017年

『本の本 夢眠書店、はじめます』 夢眠 ねむ 著 新潮社 2017年

千代田区立日比谷図書文化館 広報誌

日比谷のシンボル 市政会館



現在も時を刻む振り子時計

1929(昭和4)年10月19日、オフィスを中心とした市政会館と講演会などが行われる公会堂が一体となった当時としては珍しい建築が日比谷公園に誕生しました。自主独立した市政の研究機関として東京市政調査会設立構想をもっていた後藤新平に、稀代の銀行家・安田善次郎が共感し巨額の寄付を申し出たことにより実現したものでした。設計者は早稲田大学大隈記念講堂の設計でも知られる佐藤功一。度重なるデザインの変更により塔時計が印象的な今の美しい姿となり、1999(平成11)年には「東京都選定歴史的建造物」に選ばれました。昨年90周年を迎えた市政会館は随所に当時の面影を残し、日比谷のシンボルとして受け継がれています。

1929(昭和4)年10月19日、オフィスを中心とした市政会館と講演会などが行われる公会堂が一体となった当時としては珍しい建築が日比谷公園に誕生しました。自主独立した市政の研究機関として東京市政調査会設立構想をもっていた後藤新平に、稀代の銀行家・安田善次郎が共感し巨額の寄付を申し出たことにより実現したものでした。設計者は早稲田大学大隈記念講堂の設計でも知られる佐藤功一。度重なるデザインの変更により塔時計が印象的な今の美しい姿となり、1999(平成11)年には「東京都選定歴史的建造物」に選ばれました。昨年90周年を迎えた市政会館は随所に当時の面影を残し、日比谷のシンボルとして受け継がれています。

塔時計を動かした振り子時計

東西南北にある塔時計の針と館内の全ての時計は、館内に置かれた振り子時計からの信号で同時に動かし、阿部式電気時計「の仕組みが採用されていました。現在の塔時計は電波時計によって針をうごかしていますが、かつて信号を送り続けた振り子時計は今も館内に置かれ、時を刻んでいます。

建設当時の面影を伝える空間

外観だけではなく、館内はリノベーションしながらも、設計者の佐藤功一がこだわったエレベーターホールの青いタイル、米国YALE社のドアノブやドア・クロージャー、2006(平成18)年まで利用されていたメルシュートなどの意匠や設備が大切に残され、当時の面影を伝えています。



消火栓にも当時の面影

協力:公益財団法人 後藤・安田記念東京都市研究所 東京都千代田区日比谷公園1-3 https://www.timr.or.jp

千代田区立図書館 千代田区立図書館企画展示 デジタル読書を楽しもう!!

千代田Web図書館をベースに、子どもから大人までが楽しめる電子書籍の紹介や利用方法などをパネルで解説するとともに、関連本135冊を展示・貸し出します。

- 期間: 開催中～9月26日(土)
- 場所: 千代田図書館9階 展示ウォール

関連講習会 千代田Web図書館講習会

パソコンやスマホで電子書籍を借りて読むことができる電子図書館の操作方法などを丁寧に説明します。

- 場所: 千代田図書館9階 研修室(事前申込制・無料)
- 申込開始: 9月7日(月)

1 シニアのためのWeb図書館講習会 2 電子書籍を活用しよう!入門編

第1回 9月17日(木)10:30～12:00 9月25日(金)19:00～20:30
第2回 9月18日(金)16:30～18:00 詳しくはホームページでご確認ください。

calendar 開館時間:平日10時～22時 土曜10時～19時 日祝10時～17時 休館日

2020年9月							2020年10月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
			1	2	3	4	5					1	2	3
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	

● お問合せ先: 千代田区立日比谷図書文化館 〒100-0012 千代田区日比谷公園1-4
TEL:施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343 URL: https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

access

〔都営地下鉄〕
● 三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分
● 丸ノ内線「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分

〔東京メトロ〕
● 丸ノ内線
● 日比谷線
「霞ヶ関駅」B2出口 徒歩3分
● 千代田線
「霞ヶ関駅」C4出口 徒歩3分
JR「新橋駅」徒歩10分

※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

千代田区立図書館からのお知らせ


9・10月の講座

▶「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

9/1 (火) 千代田区民講座
未来に続く日本の領土 いかにか拓かれ、歴史を刻んだか
 講師：吹浦 忠正(NPO法人 ユーラシア21研究所理事長)

関係各国の様々な見解や主張により、確かな回答を見い出せない領土問題。漁業・居住・資源・航行・軍事などの主権問題だけでなく、環境問題にまで及ぶ地球規模の大きな課題が残されています。よくある「机上の空論」ではなく自身の多くの体験をもとに、地理や歴史から領土問題を見直し、未来に続く日本領土のあり方をお話しいたします。
 (主催：神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)


■日時：9月1日(火) 19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：無料



9/4 (金) 千代田区内ミュージアム連携企画
「はにわ」の世界を探る 一茨城県・舟塚古墳の埴輪群を例に
 講師：忽那 敬三(明治大学博物館 学芸員)

人物や動物、家、武器武具などを表現した古代の「はにわ(埴輪)」は、およそ1500年前に権力者たちの墓の上に立て並べられました。1か所から出土した埴輪の展示としては都内でも最大級の明治大学博物館の舟塚古墳を例に、埴輪に表現されたまつりの様子と、そこにこめられた意味について紹介します。

■日時：9月4日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民500円)
 ※3月10日(火)の講座が延期されたものです。




足置きつたの板がつく敷を表現した珍しい馬形埴輪(明治大学博物館提供)

9/9 (水) 電子書籍・電子図書館の未来
 講師：植村 八潮(専修大学文学部教授・博士(コミュニケーション学))

コロナ禍は私たちの日常を大きく変えました。今、場所や時間を選ばず非対面で利用できる電子書籍・電子図書館が注目されています。音声読み上げや文字の拡大機能など便利な機能も備え、ますます私たちの生活に浸透していくでしょう。それは「本を読むこと」にどんな変化をもたらし、紙の本はどうなっていくのか。日本の電子書籍の研究・普及・標準化に長らく携わってきた講師と本の未来を考えます。

■日時：9月9日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円




〈参加申込〉電話(03-3502-3340)またはホームページにて、講座名、お名前(よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

9/11 (金) 古書で紐解く近現代史セミナー第36回
勸工場の時代 ～江戸の商慣行と百貨店の狭間で
 講師：西木 浩一(東京都公文書館 課長代理(史料編さん担当))

1877年の第1回内国勸業博覧会の後、現在の丸の内にわが国初の勸工場が設立されました。一世を風靡したこの新たな形態の商品陳列所について、資料に基づきながらその後の発展と衰退をたどり、城下町江戸から帝都東京へと移り変わる都市の歴史の中での位置づけを考察します。

■日時：9月11日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民・学生 500円)




「辰之口勸工場庭中之図」吟光

9/23 (水) 林野庁×日比谷ビジネスSDGs
なぜ今、都会で山林を考えるのか? ～『森林・林業白書』と多業種の木材利用や森林活用参入に学ぶ～
 講師：河南 健(林野庁)、関本 和彦(TDKラムダ㈱)、小林 道和(㈱竹中工務店)

森林は水を育み、気候変動の緩和や災害の防止、リラックス効果など多機能を持ち、木材の利用や森林空間の活用は私たちの暮らしの持続可能性を高めます。6月に公表された『森林・林業白書』から現状と将来像を学び、企業の先進的取り組み事例に学びます。
 (協力：林野庁)

■日時：9月23日(水) 19:00～20:45(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円




イラスト「北の森漫画」より 平田美紗子

9/24 (木) 展覧会への入口講座 Vol.30 千代田区内ミュージアム連携企画
「もうひとつの江戸絵画―大津絵」展の見どころとその背景
 講師：田中 晴子(東京ステーションギャラリー学芸室長)

江戸期の安価な土産絵、大津絵。近代になり、多くの文化人たちを惹きつけ、文人画家の富岡鉄斎、洋画家の浅井忠、民藝運動の創始者である柳宗悦など、当代きっての審美眼の持主たちが、おもに古い大津絵の価値を認め、所蔵しました。大津絵について、旧蔵者について、さらに展覧会の裏話なども紹介します。

■日時：9月24日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民 500円)



《鬼の行水》日本民藝館蔵

10/8 (木) 江戸歴史講座第67回 EDO ART EXPO関連講座
きものの17世紀―華ひらく文様
 講師：丸山 伸彦(武蔵大学 人文学部 日本・東アジア文化学科 教授)

現代のきものは多様な文様を特徴としている。その文様が花開いたのは桃山時代から江戸時代にかけてであるが、特に17世紀には劇的ともいえる展開を示している。この時代の服飾史に光を当て、文様の変化と出版等との関連から、日本が流行という現象が生まれたもっとも早い文化圏であることを明らかにする。

■日時：10月8日(木) 19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円(千代田区民 500円)




『新撰小袖御ひいなかた』寛文7年(1667年)刊

10/14 (水) ワハハ本舗主宰 喰始が語る、これからのショービジネス
 講師：喰 始(ワハハ本舗主宰・演出家)

「ゲバゲバ90分」、「カリキュラムシーン」、「天才・たけしの元気が出るテレビ」、「モグモグGOMBO」、「全日本仮装大賞」等を手掛けてきたワハハ本舗主宰の喰始氏。今般のコロナ禍はワハハ本舗にも大きな打撃を与えました。本公演の中止、若手芸人も活躍の場を失いました。今回は、このつらい時期をどう乗り越えようとしているのか、アフターコロナで目指すものは何かを語っていただきます。


■日時：10月14日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円



10/23 (金) KEK物理学シリーズ vol.3
電子の悩みが新材料を生み出す ～量子ビームで見るナノ構造～
 講師：村上 洋一(高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所 教授)

物質の中で電子はとても悩んでいます。自由に振る舞えないからです。でも環境を少し変えてやると、電子は生き生きと動き回り、新材料の源にもなります。高エネルギー加速器で作られる量子ビームを使うと、小さなナノ構造の中で繰り広げられる電子のドラマをつぶさに観測することができるのです。


■日時：10月23日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
 ■会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
 ■定員：60名 ■参加費：1000円



特別研究室企画展示
江戸～東京の風景 入場無料
 千代田の地域資料を中心に

特別研究室では江戸の風物や明治期の東京の様子を描いた資料を数多く所蔵しています。今回の展示では、幕末から明治期にかけての近代化に進んでいく東京の姿を、千代田の地域資料を中心に紹介します。展示資料からは、当時の人々の姿や今も残る景色などをご覧いただけます。現在に繋がる幕末～明治期の東京の風景から当時の暮らしぶりに思いをはせてみるのは如何でしょう?

■会 期：開催中～9月30日(水) ※休館日：9月21日(月)
 ■開室時間：平日10:00～20:00、土曜10:00～18:00、日曜・祝日10:00～16:00
 ■会 場：4階 特別研究室



「東京三十六景 筋違い門内」昇斎一景 1871年

予告 特別展
荒俣宏の 大大マンガラクタ館
 〈マンガラクタ〉—マンガを含め、「だれかに発見されないかぎり、ずっとゴミくず同然に埋もれてしまう」ガラクタこそを面白がる、という価値観を示した造語。このことばを考え出したのは、作家の荒俣宏氏です。本展では、荒俣氏の人生と好奇心の拡がりを、自身のコレクションや創作物などで紹介する展覧会です。

期間：10月16日(金)～12月16日(水) 場所：1階特別展示室
 ※詳しくは、次号で紹介いたします。

編集後記
内 幸町から日比谷公園の方向を見上げると目に入る市政会館。辺りが暗くなると灯される塔時計の美しさには、ため息がもれます。今回、表紙を作成するにあたり市政会館の塔時計を見学させていただきました。趣のある電灯の明かりに照らされながら螺旋階段で塔の最上階へ登ると、いつも見慣れた日比谷公園とは少し違った景色が広がります。現在は周辺に高い建物が建てられていますが、当時は遠くまで見渡すことができましたよう。市政会館は建設当時の面影が随所に残され、ピカピカに磨かれたドアノブなど現役で利用されているものもあります。保存するだけではなく今もなお大切に利用しながら伝承する、日比谷公園の中でも特別な場所と感じました。



市政会館から望む日比谷図書文化館